

第37回日本骨折治療学会印象記

旭川赤十字病院 森 井 北 斗

H23. 7. 1 から二日間に渡って開催された第31回骨折治療学会に参加してきましたので参加記を綴らせていただきます。昨年は札幌東徳州会病院の辻先生にこの参加記を頼まれていたのですが、第1子の誕生予定日が偶然重なってしまい日帰り横浜ツアーとなりました。(学会場滞在時間二時間、という過去最短の参加となっていました。) 今年是比较的ゆっくと参加できました。

私は今回が3回目の参加で、発表は2回目になります。今年は東日本大震災の影響で節電がすすめられているなかでの開催で、北海道から参加の身としてはかなりの暑さを覚悟してきていたのですが、幸いにもさほどではなく、学会場によっては寒さを感じる場所もあったくらいでした。服装も会長の佐々木孝先生みずからノータイ、上着なしの全身写真を抄録にのせるほどクールビズを強調し、ネクタイをしている人はほとんどいませんでした。リラックスできるので、夏の学会は今後これがいいのではないのでしょうか。学会全体の発表内容としては、パネルディスカッションが橈骨遠位端骨折、骨粗鬆症性椎体骨折、人工関節周囲骨折と今後も症例が多くなってきそうな骨折をテーマとしており、最も演題数が多いのはやはり大腿骨近位部骨折でした。大腿骨近位部骨折については、最近話題となっている髓内型、陥入型骨折についての発表が多く、会場によっては分類、テレスコーピングとその予防や治療方法について熱い議論が展開されていました。やはり3 DCT の出現に、骨折の詳細がわかってきたこと、最近症例が多く、インプラントもいろいろな種類がでていることからトピックになりやすいのでは、と考えました。自分の発表内容にすこし書

かせていただくと、最近ビスフォスフォネート長期内服の患者(まだ関連性は証明されていませんが)における大腿骨骨幹部脆弱性骨折が話題になっており、日整会でも非定型大腿骨骨折と定義し症例の登録をすすめているようです。この骨折は大腿骨の前弯、外弯の強い患者や長期のビスフォスフォネート製剤を内服している患者に多く、症例がそれほど多くないのでまだなにが危険因子かのエビデンスもありますが、片側が骨折すると他方も骨折する両側例が多く、片側発症の患者や大腿部に痛みをとまう患者に対しては、インフォームドコンセントはもちろん予防的な手術やビスフォスフォネート製剤の休薬、またテリパラチドの使用などの何かしらの治療が必要です。まだ一定の見解がないようなので、今後注目したいと思っています。

また個人的に興味深かったのは、モーニングチレクチャーでの **Essex-Lopresti** 骨折の治療についての慶応大学整形の中村俊康先生の発表です。稀であるこの重度外傷についてのネタのみで一時間の講演はあまりないのではないのでしょうか。この損傷は **DRUJ**、骨間膜、**PRUJ** の複合損傷ということで、回内外のメカニズムから解剖までわかりやすく講演していただきました。回内外に骨間膜靱帯が重要である話は知っていましたが、**BTB** を用いて再建までしているとの話をされており驚きました。肘、前腕、**TFCC** など自分がすこし苦手としている分野でのお話だったので、勉強になりました。

また、大腿骨近位部骨折や橈骨遠位端骨折が顕著ですが、数多くのインプラントがメーカーから出されており、新しいインプラントに関す

る発表も多く出されていました。使う方も手術適応や方法についてよく知ってから使用しないとややメーカーに振り回されている感があります。インプラントが進歩するということはその選択のためにはこちらの知識も必要であり、私も知識の **up to date** を行うと同時にブレない自分の治療方針もつっていたい、と考えさせられました。

一日目の夜に、市立札幌病院の佐久間先生、徳州会病院の土田先生を始めとするみなさんで、福島大学の先生方も加えた北海道御一行＋アルファで懇親会も開かれ、横浜中華街でおいしい料理をいただきました。お酒（紹興酒）も話もすすみ、他の地域の先生方との交流もできて非常に有意義でした。来年は京王プラザホテルで開催とのことですので、新宿の夜で第二回があれば参加したいと思います。抄録もふくめて北海道の先生からの発表が、ポスターを含めて9演題と昨年よりは多かったようですがやはり少なく、もっと演題数がふえれば昼も夜も盛り上がってくるのでは？と感じます。数が増えればいいというわけではありませんが、やはり北海道の骨折治療のレベル向上には、全国学会での発表も大事なのではないでしょうか。まだ私も2回目ですが、他の分野よりは敷居が低く発表しやすい学会である印象がありますので、あまり経験がない先生方にもチャレンジをおすすめします。

簡単ですが参加記とさせていただきます。